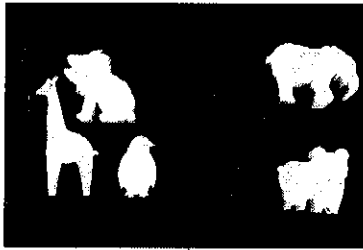
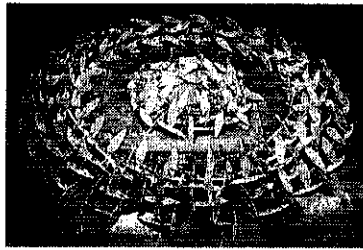


# パズルやビート板など

# 知育玩具開発に参入

緩衝材製造の富士ゴム産業(静岡市宇佐美登社長)は知育玩具に参入する。ワコールグループと子供用パズルを開発するほか、浮力が変わる特殊な水泳用ビート板を商品化する。ウレタン加工で培った独自の技術を活用、大手メーカーの下請け依存から脱却する。中小企業が独自商品を全国展開する事例として注目を集めそうだ。



様々な形の作品を完成できる子ども用パズル(写真上)と水泳用ビート板

## 富士ゴム産業、ワコール系と

# 独自技術を活用

子供用パズルのブランド名は「PLAY LEAF」。ワコールグループの複合文化施設、スパイラル(東京・港)と共

同開発した。

商品は木の葉形で中央に三つの穴状の差し込み口があり、両端に二つの枝状の突起を持つ。枝を穴に差し込んで曲げるなどして組み合わせ、世界中で人気の高いレゴブロックのように様々な形を生み出せる。長方形の三つの穴はそれぞれ方向が違っており、差す方向によって完成品の形が変わり、子どもの想像力を刺激するという。

素材には靴底に使うEVA(エチレン酢ビコポリマー)樹脂を採用、焼却処理しても有害ガスが発生しないという。青、赤、黄など六色の葉を用意した。複数の色を使う

ことで子どもの色彩感覚の育成にも役立つ。

六月上旬から松坂屋静岡店で販売、価格は三十六枚入りで三千三百六十円。

ビート板「PUZZLE THE BEAT」はソウやキリンなどの型抜きを施した点が特徴

だ。型抜き部を外すと最大で三分の二まで浮力が減り、水泳時に浮く原理を理解しやすくなる。プール教室からの評価が高く、すでに関西や静岡県内の教室が採用した。価格は九百九十八円から。夏をメドに小売店での販売を始める。

同社は昨年度、静岡市が主催する地元メーカーとデザイナーの共同事業に参加するなど、独自の製品開発に乗り出している。知育玩具事業をきっかけに二〇〇九年六月期の売上高は今期見通しより二億円多い十七億円を見込む。